

『2007年上半期(1月～6月)JVA統計調査』について

当協会は9月12日(水)午後1時30分より、協会会議室において『2007年上半期(1月～6月)JVA統計調査結果』について記者発表会を開催しました。当日の出席者は、上田武二郎統計調査委員会委員長(株)ポニーキャニオン営業本部本部長)、後藤理事・事務局長、肥田幹夫管理部長、上田直子管理部次長兼広報課長。

以下に記者発表された報告の中から抜粋して上半期の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、同調査の詳細な結果は『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.64』として冊子にまとめられ、一般の方にも有料にて頒布しております。

詳細については、広報課上田まで(03-3542-4433)、もしくは協会ホームページ「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以上

<2007年上半期 JVA統計調査結果について(抜粋)>

1. ビデオソフトの総売上は1483億5800万円で前年同期比95.9%となった。上半期の実績としては過去4番目(2004年、2003年、2006年に続く)となる。
2. ビデオソフトの総売上金額のうち99.7%をDVDビデオが占め、ビデオカセットは僅か0.3%となった(前年の2006年上半期のビデオカセットの構成比は2.5%だった)。
3. DVDビデオの売上金額は1478億4800万円で、前年同期比98.0%と前年同期を僅かながら割り込むこととなったが、上半期のDVDビデオの実績としては前年に継いで2番目の高実績となった。
4. DVDビデオの流通チャネル別売上金額では、「販売用」が65.5%、「レンタル店用」が33.9%、「その他・業務用」が0.5%となった。
「レンタル店用」は501億3900万円で前年同期比105.3%と前年同期を上回り、上半期の売上としては過去最高となった。一方、「販売用」の売上金額は969億円となり、上半期実績としては過去5番目、前年同期比は94.9%と2004年をピークに前年同期割れが続いている。
5. DVDビデオの「販売用」売上金額の構成をジャンル別に見てみると、前年同期に引き続き、構成比1位は『日本のアニメーション(一般向け)』となっており(構成比29.4%)

『洋画 (TV ドラマを除く)』は第2位に留まった (同 15.0%)。しかし数量の構成比では逆転し、『洋画 (TV ドラマを除く)』が1位 (構成比 26.9%)、『日本のアニメーション (一般向け)』は2位 (同 22.0%) となる。3位以下は金額、数量共に『邦楽』『邦画 (TV ドラマを除く)』『芸能・趣味・教養』の順となった。

6. DVD ビデオの「販売用」売上金額のジャンル別の伸張を見てみると、構成比2位の『洋画』が前年同期比 75.7%、3位の『邦楽』が同 73.6%と落ち込んだ。しかしながら、構成比1位の『日本のアニメーション (一般向け)』が前年同期比 115.2%と二桁の成長となった他、その他の主なジャンルは軒並み前年同期を上回っている (『邦画 (TV ドラマを除く)』同 108.9%、『芸能・趣味・教養』同 129.6%、『海外のTVドラマ』同 122.7%、『日本のTVドラマ』同 110.4%、等)。したがって、つまり『洋画』と『邦楽』の減少が「販売用」総売上金額の前年同期割れに大きく影響したが、その他のジャンルにおいてははまだ成長過程にあると言えよう。特にテレビのパラエティ番組を含む『芸能・趣味・教養』は大きく伸張しており、『邦画 (TV ドラマを除く)』に迫る売上実績となっている。
7. DVD ビデオの「レンタル店用」の売上金額をジャンル別に見てみると、『海外のTVドラマ』が前年同期比 207.8%と2倍の伸張となっており、売上構成では『邦画 (TV ドラマを除く)』を抜いて3位となりビデオレンタル店での人気の高さを示している。構成比1位は相変わらず『洋画 (TV ドラマを除く)』が占めているが前年同期比では98.2%と僅かながら前年同期割れ (数量では112.5%と二桁成長となっている。レベニューシェアリング方式の導入などにより数量は多く出荷されるが、1本あたりの売上金額は低くなっている傾向がうかがえる)。構成比2位の『日本のアニメーション (一般向け)』も同 85.4%に留まった。『邦画 (TV ドラマを除く)』は『海外のTVドラマ』に抜かされたものの前年同期比は 116.3%と二桁成長であり、「レンタル店用」全体の売上金額の前年同期比 105.3%という成長は、『海外のTVドラマ』と『邦画 (TV ドラマを除く)』の好調に支えられたと言える。
8. 出荷金額を出荷数量で割って求めた平均単価を見てみると、「販売用」DVD ビデオの平均単価が 3255.5 円で前年同期比 109.3%と大きく上昇した。これは『洋画 (TV ドラマを除く)』(平均単価 1815.0 円、前年同期比 106.1%)をはじめ、主だったジャンルのほとんどが価格上昇に転じたためである (『日本のアニメーション (一般向け)』@4356.0 円、前年同期比 103.2%。『邦楽』@3495.8 円、同 107.1%。『海外のTVドラマ』@9191.2 円、同 202.6%)。しかし『邦画 (TV ドラマを除く)』は平均単価 2885.5 円で前年同期比は 87.2%と大きく低下している。
一方、「レンタル店用」は、昨年来、低価格化傾向が続いており、全体の平均価格は 4260.6 円で前年同期比は 92.1%となった。『日本のアニメーション (一般向け)』が平均単価 5342.4 円で同 112.8%と単価が上昇したが、その他の主だったジャンルは低価格化している (『洋画』@4287.5 円、前年同期比 87.3%。『海外のTVドラマ』@3134.3 円、

同 91.3%。『邦画』@4985.4 円、同 89.0%)。

- 9 . 「販売用」の DVD ビデオのルート別売上の構成では、相変わらず構成比の過半を「レコード店ルート」が占めているが、「インターネットルート」が大きく構成を伸ばし、「家電ルート」を抜いて構成比 2 位となった。この結果ルート別構成の順位は「レコード店ルート (構成比 52.3%)」「インターネットルート (同 12.3%)」「家電店ルート (同 11.3%)」「ビデオレンタル店ルート (同 8.4%)」となった。

なお、当期 (2007 年上半期) 調査より、ビデオカセットについては合計売上金額、合計売上数量、合計総発売新作数のみを調査し、流通チャネル別及びジャンル別調査については、ビデオカセットは取りやめ DVD ビデオのみ実施することとした。

以 上